

上京

史蹟と文化

上京区120周年記念

VOL.18 2000



上京の史蹟
上京—その歴史と文化
上京区薪能



ふさとひも富本株式会社社長
宮本 集史

美を創る

上京区民ふれあいまつり
上京区の名木を訪ねて
上京の昔 衣食住
秋の上京茶会
上京クイズ

京都まつり

美を創る

宮本
とし
隼史

（ふさ・ひも製造）
京都市上京区武者小路通室町西入る
ふさとひも宮本株式会社社長



「生まれた時の臍の緒から、死んでからの棺まで、人間の一生は房や紐と縁の切れなかつた昔と違つて、生活様式の変化に伴い感性・技法・技術を生かした新しいものづくりに挑戦しなくては」と熱っぽく語られる宮本隼史さんは、明治二十年代の創業以来、房・紐を製造、販売してこられた四代目である。

淀藩の藩士を親にもつ初代の定太郎さんは、京都で撚紐の皮着せの仕事を創められた。皮着せとは木綿芯を絹で巻いた紐で、現在も用いられている。大正の世が終わり昭和の世となると、昭和天皇の御大典に京都の街は湧きかえり、各家の軒先には祝賀の幕が懸けられ、それを括る房の需要が伸び、家業も繁昌するところとなつたといふ。

昭和に入ると戦争のために思わぬ紐の需要が増大する。それは軍刀の下緒や柄糸を製造していることから軍の仕事にかかわるところとなつた。その技術は現在の仕事の上にも生かされているといふ。しかし、統制経済の世となり、企業統合や原料の配給制を経て終戦を迎える。

戦後は紐を使う釦や、クリスマスツリーの環掛けなどを考案して輸出向の製品も作られるようになる。一方、皮着せ組紐の技法を生かして国内向には日々の生活の中に生きづいた製品にも力を入れられるようになつた。昭和五十年代、一代目の茂さんの隠居に伴い、長兄ら三兄弟で家業を継ぎ、房・紐の製造と貿易を中心とした宮本株式会社を設立される。

店に置かれている房・紐を見ると、京都御所の小御所や二条城書院の襖の引き手の房、それに刀の柄糸、鎧や兜の総角、江戸神輿の太い紅紐等々、一つ一つが手造りならではの精緻な仕事ぶりをつかがうことができる。

上京区一二〇周年記念

上京の史蹟

その十七 平安京前史

平安京の建設

延暦十一年(七九二)六月と八月、長岡京を襲つた大風水害は、遷都を決定的なものにした。もはや一刻の猶予もできないと、焦燥感を募らす桓武天皇の姿を見て、側近くに仕える和氣清麻呂は、九月のある日、御心を慰めるための遊獵と称して葛野郡へ天皇の供をしている。これは当然遷都のための視察であった。

和氣清麻呂は、かつて称徳天皇の御代、弓削道鏡が皇位につかんとしたのを阻止した功績により、光仁天皇朝では天皇夫人の高野新笠の中宮大夫を勤め、桓武天皇の信任は大変厚かった。

延暦十二年(七九三)一月十五日、天皇は大納言・藤原小黒麻呂、左大弁・紀古左美らを葛野郡宇太村に派遣し、莫都すべきか、否かを、実地検分させた。そのとき彼等に同行したのが、南都東

大寺沙門の賢懐であり、彼には地相の吉凶善悪などを調べさすのが目的であつた。その結果、「この地は四神相応(古来、中国の王城の地として理想的な場所)の地であり、山河襟帶、自然に城をなす」土地という報告がなされた。

山背国葛野郡、愛宕郡(おたき郡)。東、西、北の三方に山が聳える盆地で南部のみが開け、そこには広大な巨椋池が広がっている。太古は湖底であった関係か、至る所に湧水が見られ、盆地の中央には加茂川が、また、東北からは高野川が盆地を横切り、西部には紙屋川や大堰川、その他小河川が数条、清流を湛えている。

桓武天皇は、同年二月二日、参議治部卿・壹志濃(おうしおの)王らを加茂神社に派遣し、遷都の事を奉告した。そこで、初代造営長官に藤原小黒麻呂を任命、彼の一族の秦氏や和氣清麻呂等と共に一大土

木プロジェクトを結成し、平安京造営に着手するのであつた。まず最初は河川の土木事業から始まつた。北山より現在の堀川を南下し、現在の四条と五条の間で高野川と合流する加茂川を、上流で東南に迂回させ、出町で高野川と合流させ、そこから真南に流路を変更する事。第二に、加茂川の源流であつた堀川は運河とする事。第三に、西部を流れる紙屋川を一条大路付近から真っ直ぐ南流させ、これも運河として西堀川とする事。この三本の川の流路変更により、紙屋川、即ち、西堀川と堀川、堀川と加茂川の距離が一条大路でほぼ等しい距離になるのである。そして、この東西の堀川を利用して北山から伐り出した材木を都へ運び、その東西堀川の中間に大内裏を始めとする大極殿を創り上げるという壮大な計画であった。

これらの土木事業が終了すると、いよいよ都市計画にはいるのである。平安京をどのような都市にするのがもつとも似つかわしいか。この問題を巡つて天皇と造営長官との間で再三に亘つて協議が進められた。また、この問題に関して藤原小黒麻呂は恐らく秦氏とも協議し、彼等の意見を参考にしたものと思われる。

〒602-8435 京都市上京区今出川大宮東入
TEL (075) 441-0319 · 414-0319

国内・海外挙式から衣裳やフォトプランまで、ワタベウェディングはあなたのブライダルをフルサポート致します。

WATABE WEDDING

ワタベウェディング株式会社
京都グランドプラザ

〒602-8011 京都市上京区烏丸通出水上の
TEL.075-451-4111

私は早春の一日、船岡山に登った。

船岡山は山というより丘と呼ぶのが相応しいが、その山頂に人間の背丈くらいの三角錐の形をした石が立つている。この石が何であったかは詳らかでないが、恐らく先住民の祭祀の対象であった事は確かであろう。今、この石の前に立つて南の方を眺めると、眼下には京都の町を一望することができるのである。そして視線をやや上方遙か彼方に転じると、そこには東寺の五重の塔が春霞みの中に美しい姿を現す。彼は船岡山の頂点から真南に線を引き、これと基本線である朱雀大路にし、北部は遷都以前からあつた北国道（一条大路）を基準に南北に十五条の道路を作り、東西は朱雀大路を基準として東西十条、そしては朱雀大路より東部を中国長安との都市計画にならつて左京とし、西部を右京と呼ぶことにした。

桓武天皇が新京に遷都したのは延暦十三年（七九四）十月辛酉二十二日であった。「辛酉の日」とは、陰陽道でいわれる「革命」の日で、天皇はわざわざこの日を選んで遷都をしたらしい。そして、翌十一月八日には詔をだし「山のうしろ」という山背を山城国に書き改め、この新都を「平安京」と号

したのである。

延暦十四年（七九五）正月十六日、未だに大極殿は出来上がっていなかったが、宮中に全ての貴族や公家を集め、あらわせり踏歌を奏で平安新京を頌ぐ宴会が盛大に催されたという。しかし、この当時はまだ新京の工事は緒についたばかり

で、この後十年間に亘つて工事は継続するのであった。

桓武天皇が号した「平安樂土、万年春」即ち「平安京」は、即位以来十三年、まさに桓武天皇を初め貴族全ての希望の象徴であつたといえるだろう。



花にまつわるエピソード…
季節も添えて演出します。

FLOWER OFFICE
花工房
2F カフェ

花キューピット

全国どこへでもお花をお届けいたします。
京都市上京区烏丸通今出川下ル 〒602-0903
TEL 075-414-8700(代) FAX 075-414-7787

錦小路通
馬丸通
四条通
富小路通
六角通
河原町通
新京極
木屋町通
鴨川
三条通
川端通
御池通
三条京阪
Ciao Pasta チャオ パスタ
定休 水曜
AM11:00～PM3:00 PM5:00～PM9:00
〒604-8054
京都市中京区富小路四条上ル地
☎(075)255-2060
AM12:00～PM10:00
〒604-8032
京都市中京区六角通河原町東入ル
☎(075)255-5733

上京——その歴史と文化

滋賀県立大学教授
京都市歴史資料館館長

村井 康彦

京都東西の道を歌うわらべ歌がござります。それは「丸竹夷二押御池姉三六角蛸錦四綾仏高松万五条」ですが、どうして丸太町から始まるのか、それより北がどうして出てこないんだ」といわれたことがあります。なぜでしょうか。これも上京のあり方に深く関わってくるような事柄だらうと思ひます。

ちなみに、道路を覚えるというのことは、京都に住む人間にとつては大事なことです。昔は条坊制というのがありますて、何条・何坊・何町・西何行・北何門というふうに細かく場所を定め、最後にこの場所であるというような、非常にはつきりした位置づけができるような地点表示がなされました。実際にはそういう町のあり方が崩れてしまふから、正確に見える表現が実はあんまり現実的ではなくなりました。

平安時代の後期あたりからは、何々通の北というような、つまり現在の四

条烏丸北などの簡単な表現で十分通用するようになつてきます。そうなりますと、道路の名前を覚えるということが生活をして行く上で大事な知恵になつてきました。たとえば『掌中歴』を見ますと、一条から九条までの頭文字だけを書き上げまして、それを覚え、口遊（くちざさま）ようにしていきます。したがつて、かなり早い時期から道路の名前を覚えることが必要とされたのでしよう。

そこで、上京という地域を特徴づける事柄があるように思います。また、その地域に住む人間として地域の特徴なりを理解していただきたいと思います。まず、上京の範囲ですが、東は鴨川から西は天神川までの間で、南半分が旧平安京、北半分が郊外と半々位の割合で含まれた地域だらうと思えるのです。もともと上京というのは、二条通りを境としてそれより北を上京といつていきました。平安宮南辺の朱雀門

に沿つて東西に走る二条大路を境として、北を上辺（かみあたり）、南を下辺（しもあたり）といい、それが上京あるいは下京ともいわれました。上京の方は面積としては、ずっと狭かつたわけです。しかし大内裏がありますために、二条大路より北の左京の地域は、いわば高級住宅街、貴族たちも内裏に近い所に住むようになりますから、地域として二条より北と南というのは、おのずから地域的な認識の違いがあつたでしよう。

元祖
ぼたん鍋と
京料理

京・上御靈前鳥丸西
二〇七五・四四一・〇六一〇代

左京中心になつてまいりますけれど、左京もまた上京と下京の南北に分かれてしまします。極端にいえば上京と下京の間を一本の野中道が通つていて、上京と下京がつながつていたことが書かれている戦国時代の文献もあるくらいです。単純に申せば、逆瓢箪型をしており、上京の方がやはり規模としては大きかつたのです。そういう意味で、戦国時代は、京都の町が小さくなつた時期です。

下辺の方は、東市、西市というものが七条辺りにありますて、この周辺に市町のような賑やかな町が形成されます。しかし時代が下がつてきますと、自然村落がこの右京の中に取り込まれていて、ですから都の中に田舎が存在したわけです。そういうことで左京中心になつてまいりますけれど、左京もまた上京と下京の南北に分かれてしまします。極端にいえば上京と下京の間を一本の野中道が通つていて、上京と下京がつながつていたことが書かれている戦国時代の文献もあるくらいです。単純に申せば、逆瓢箪型をしており、上京の方がやはり規模としては大きかつたのです。そういう意味で、戦国時代は、京都の町が小さくなつた時期です。

ある時期までは自律的に増殖して大きくなつて行くのが都市だと思いますが、最近は都市の中でも過疎化する、東山区ほどではないにしても、上京区も過疎化してきています。過去においても平安京はどんどん小さくなつて行つたのです。それがまた江戸時代を通じて、旧平安京城は人家で埋まり、さらに近代には田舎であった西の方も埋まつて、今日では京都盆地はほとんど人家で埋まつてしまつたということだらうと思います。

話を元へ戻しますと、このようなことで上京に対し下京は市町があり、商工業者がたくさん住んでいる賑やかな町というようなイメージがある時期から創り出されて行きまして、戦国時代には、草庵茶の湯あるいは佗(わ)び茶の湯を表現するのに、下京茶の湯あるいは下京茶の湯者という言い方が生まれてくるのです。それは賑やかな町の中、日常性の中でも静かな非日常の空間を営んで楽しむのを市中の山居(しちゅうのさんきよ)というふうな言い方をしておりまして、それが佗び茶の湯の精神をあらわす言葉だというふうにいわれておりました。賑やかな



下京の方で、そしてまた商工業で活躍して富裕者がたくさんいる中で、茶の湯を楽しむというのが本当に意味があるのだということで、下京茶の湯といふ言葉は、ついには生まれなかつたのである。その上京に三千家がいるのはどう

せんでしたので、上京茶の湯といふ言葉は、ついには生まれなかつたのである。その上京に三千家がいるのはどう

いうわけだということになりますが、これはまたその後に別の経緯があります。その地域に住むようになつたので上京というのは、武家と公家が住んでいる地域でしたから、それでは住宅地域だという認識があつたために、静かな所で静かな雰囲気を味わつたのでは、あんまり意味がありません。つまり当時の上京とは、武家と公家が住んでいる地域で、ある意味では最も平安京的な有様を示していた地域であると同時に、東は御所で占拠され、大内裏の東の方が最も高級住宅地であつたわけです。そういうものを含んでた地域と郊外です。ある意味では最も平安京的な有様を示していた地域であると同時に、東は御所で占拠され、大内裏の内野は空地で、もともと条坊制のない場所ですから、そこには民家が造られても整然とした東西南北道路造成、宅地造成をしているとは思ひがたいところがあります。

ところで京都御所の存在は、上京区民の生活の中に、どの程度関わりがあるのかという点ではいろいろ問題があるだろうと思いますが、その存在自身は歴史的には公家とは対立していた

昨年十二月十八日にルビノ堀川で行われた上京区百二十周年記念式典の記念講演を要約いたしました。

秋の京の風物詩として親しまれている「第三十五回上京区民薪能」



邦楽 勧進帳を舞う



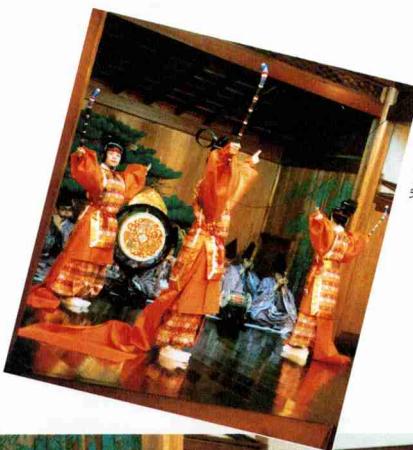
能 舟弁慶

上京区民 薪能

上京区民が楽しみにしている第三十五回上京区民薪能は、今回も雨模様のために会場を白峯神宮から河村能舞台に移して、九月二十一日に行われました。午後四時、上京区民の舞囃子や仕舞に加えて、琴の演奏による第一部が始まり、六時からは第一部に入りました。まず、舞楽「打毬樂」、宮城会の琴演奏、花柳可寿雅社中の邦舞「勧進帳を舞う」、浅井宏柔師の舞囃子「龍田」をはじめ観世流と金剛流による仕舞九番、茂山千五郎師らによる狂言「口真似」とつづき、最後に河村隆司・栄重両師らの能「舟弁慶」が演じられて、六百人の観客が魅了しました。



舞離子 龍田



舞樂
打鼓樂



狂言
口真似



邦舞 かむろ



仕舞 殺生石



琴演奏

耳鼻咽喉科

鈴木医院

〒602-8241 京都市上京区中立壳通堀川西入

TEL (075) 441-0675



■診療時間
 月・火・水・金
 午前9:00～12:00
 午後4:30～ 7:30
 土
 午前9:00～11:30まで
 ●休診 木・日・祝

砂糖・甘味料・食品原材料元卸
 ギフト用砂糖セット製造販売元

松宮砂糖商事株式会社

〒602-8471
 京都市上京区五辻通淨福寺西入
 TEL (075) 431-3351代
 FAX (075) 431-3355

ふれあいまつり



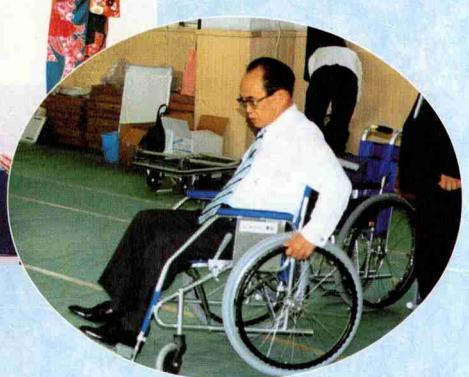
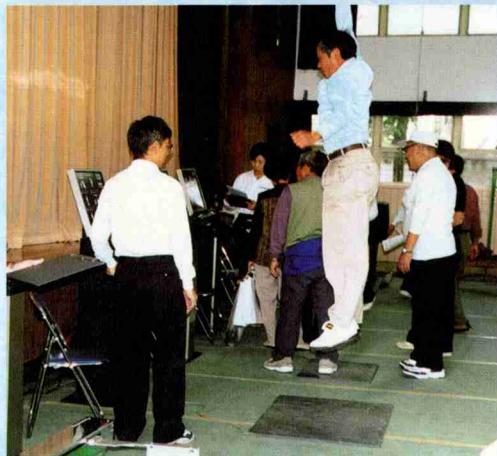
「上京区民ふれあいまつり」は九回目となり、今回も元待賢小学校を会場として、十月三十日の午後に開かれました。上京区制百二十周年を記念して、模擬店やコーナーは五十を越し、旧校舎全部を使うほどの盛況でした。

正午、せいしん幼稚園児の鼓笛隊を先頭に榎本京都市長らが入場、ステージではオープニングセレモニーが行われました。その中で、上京区民の応募で選定された上京区のシンボルマークと、上京音頭の一・三番の歌詞が披露されたあと、かわいい園児の演奏に拍手が鳴り止みませんでした。引きつき、和太鼓の演奏や、民謡、留学生による民族舞踊、女性会のミュージカル、元待賢校で練習をしている京都市少年合唱団や上京中学校吹奏楽部の演奏、プロ歌手による歌謡ショー等々、参加した八千人の区民を満喫させます。

毎年賑わいを見せる模擬店に加えて、医師会・歯科医師会・栄養士会・看護協会・牛乳組合などによる健康相談や、骨粗鬆症・体脂肪測定に希望者が殺到し、NHK京都放送局のクリアビジョン公開、洛陽工業高校のロボット実演といった珍しい催しに、より一段と人気がありました。

午後四時、明日の京都まつり都大路パレードにと余韻を残して全行事を終えました。







核にして、いきいきとした行進を繰り広げました。上京らしく昔からの着物に加え、「風になりたい」の音楽にのって各種のニユーキモノが登場し、上京の地場産業の将来をアピールしました。

京都まつり

六回目の「京都まつり」の都大路パレードは、十月三十一日に御池通で行われ、上京区隊も三十六人が参加しました。百二十周年を記念し「漲れ町衆の活力」をテーマに、ブラスバンド、維新の鼓笛隊、和太鼓を

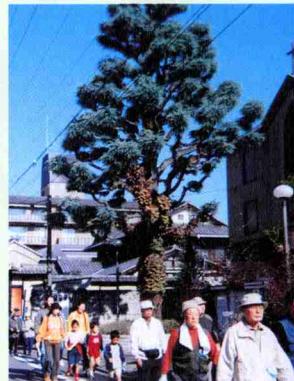


上京区の名木を訪ねて

ふれあい史蹟ウォーキング



九回目となつた「上京区民ふれあい史蹟ウォーキング」は、上京区体育振興会連合会の主管で十月十四日に「上京区の名木をたずねて」として行されました。天然記念物となつている府民ホールのエノキ（京都府指定文化財）、白峯神宮のオガタマノキ（京都市登録文化財）など三カ所の集合地点に二百人の区民が集まり、ウォーキングマップを手に史蹟をたずね歩きました。



食 昔 住 衣

上京の
ふれあい文化大学

本年度の上京区民ふれあい文化大学は、上京区女性連合会の主管で、十二月五日に「上京区の昔—衣・食・住」をテーマに催しました。六十人の参加者は、まず織成館（淨福寺上立売上る）に集合、「住」として西陣の町家の再生の実態を確かめ、猪熊下長者町下るの萬龜楼までの二キロほどを歩きながら、国の登録有形文化財になつたばかりの富田屋の店構えなど西陣の原風景をたしかめました。

萬龜楼では「衣」として山科流衣紋道による束帯と女房装束（十二单）の実演を見学しました。詳しい解説によつて古装束の実用性を改めて認識し、公達とお姫様の変身に目を見張りました。

つづいて「食」として、萬龜楼に伝わる生間流の式庖丁の実演があり、真魚箸と庖丁で鯉一尾が二見ヶ浦の景に作り上げられる鮮やかな技に拍手が鳴り止みませんでした。

最後に食の実践として有職料理を賞味して、この日の催しを終わりました。



☆第六回上京区民文化フェスティバルは、三月五日に西陣織会館で行われます。

秋の上京茶会

上京区の誕生百二十年を記念して、上京区文化振興会と上京区役所の共催する「秋の上京茶会」が、相国寺山内の承天閣美術館を会場として十一月二十一日に行われました。裏千家の懸釜により、七百人の区民らが一椀の茶に侘びを楽しみました。



火入	鵬雲齋御家元筆	霜葉織紅錦
絵唐津写	初嵐椿	
祥豊作	備前	陶陽造
銀杏透	織部	即金造
煙草盆	風炉先	鵬雲齋御家元好在判
菓子器	花入	龜甲松
茶建水	花合	吉兵衛造
蓋置	釜	
茶杓	香合	
茶盃	釜	
茶葉	棚	
茶葉	爐	
茶葉	緣	
茶葉	水	
茶葉	薄	
茶葉	器	
茶葉	指	
茶葉	淡々齋好	
茶葉	丹頂	
茶葉	青白磁	
茶葉	雲錦	
茶葉	鵬雲齋御家元作	
茶葉	鵬雲齋御家元箱	
茶葉	九代大権長左衛門造	
茶葉	萩	
茶葉	陶兵衛造	
茶葉	松清の白	
茶葉	辻利園詰	
茶葉	山苞	
茶葉	鶴屋吉信製	
茶葉	黄交趾	*
茶葉	七宝	
茶葉	露石造	
茶葉	唐銅	
茶葉	餌眷	

上京クイズ

前回の正解は

奥渕家住宅の長屋門

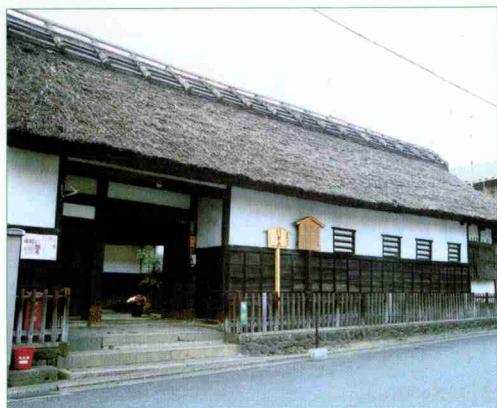
天神道仁和寺街道上ルにある茅葺の長屋門です。奥渕家は仁和寺門跡の御典医で、ここはその下屋敷でした。長屋門は享保十一年（一七三二年）に再建されました。惜しいことに南の三間分が取り壊されています。主屋とともに京都市指定有形文化財です。

主屋の玄関に「蘇命散」という看



これはどこでしょ?う?

板が掛かっていますが、これは御典式と薬の販売を許されていたという格式を示しています。



○正解者の中から抽籤にて二〇名の方に記念品をお送りします。

○締切 平成十二年三月十五日

を記入の上

△六〇二・八五一

京都市上京区今出川通室町西入

上京区役所地域振興課

「上京・史蹟と文化」

宛てにハガキでお送り下さい。

また本誌の読後感もお書き下さい。

本誌に「上京区の史蹟百選」の訂正文を添付致しました。

編集後記

○平成十一年度の上京区の事業は、実のあるものが多くて紙面に納めきれないほどでした。グラフでその様子を知っていたとき思いました。なによりもその催しに参加していただくのが、ふれあい事業の最大の成果でしょう。

○村井康彦先生の講演は長時間にわたる内容の濃いものでした。上京区基本計画策定懇談会の座長でもある先生の上京に寄せられる学問の一端を知つていただければ幸いです。（い）

読者の声

○上京に生まれ育ち八十歳を迎える今日此の頃、名前を知らないお寺の前を通らしてもらっていても素通り。ほんとに失礼したと今更感じております。（仁和・鳥原治子）

○“美を創る”身近な素材で物を創り、心を創り、想像する一番基本的なことを作品を通して受け継がれて行くことに感銘いたしました。私も近づきたいものです。

（仁和・足田英美）

○鈴木ひとみさんの話を読んで、車椅子が通るに無理のある道路に腹立ちを覚えます。車を歩道に置かないよう気を付けたいと、つくづく思います。

（嘉樂・中川きょう子）

○上京クイズはボケ防止に大いに役立っています。（仁和・中井宗二）

永年の信用と実績・真心のこもったご奉仕

葬祭センター

京都 公益社

本 社・京都市中京区烏丸三条下ル ☎(075)221-4000代 ●葬儀式場

堀川公益社・京都市中京区堀川通六角 ☎(075)241-4440代 公益社中央プライトホール/京都市東山区五条通大和大路 ☎(075)551-5555代

中公益社・京都市東山区五条通東大路東入 ☎(075)551-0042代 公益社北プライトホール/京都市北区紫明通堀川東入ル ☎(075)414-0420代

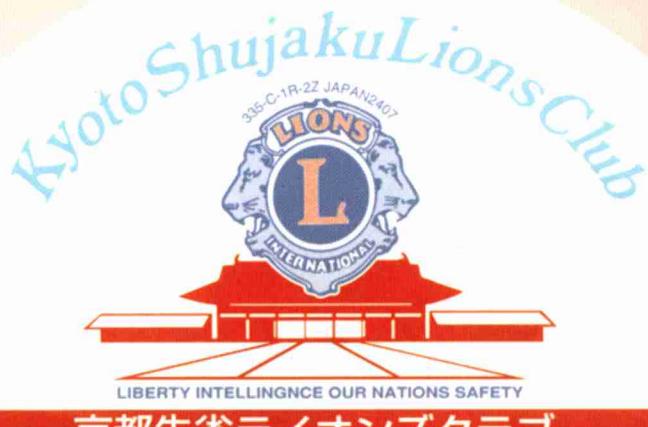
南公益社・宇治市横島町（文教大学前） ☎(0774)20-0042代 公益社横島会館/宇治市横島町（文教大学前） ☎(0774)20-0142代

滋賀公益社・大津市朝日が丘1丁目 ☎(077)523-0042代 公益社滋賀会館/大津市朝日が丘1丁目 ☎(077)523-0042代

断ちきろう 身近な差別を 私から

表紙／京都御苑の枝垂桜／瀬岡昇撮影

結成20周年 地域に密着した奉仕活動を・これからも!



- | | | | |
|------|--------------------------------|------|---|
| 1980 | JR二条駅前に「平安京朱雀大路と朱雀門由来」石碑・案内碑建立 | 1991 | 京都府・京都市幼稚園へ「日本のおとぎばやし」童話CD寄贈 |
| 1984 | 京都市社会福祉会館アスニー玄関に時計塔及び施設一式寄贈 | 1994 | 上京区社会福祉協議会設立にライトバン寄贈 |
| 1985 | JR二条駅前庭園に花時計設置 | 1995 | 京都市へ移動入浴車（上京区へ配車）寄贈
鴨川丸太町上西畔、さるすべり植樹 |
| 1989 | 京都中央市場前ポケットパークに時計塔設置 | 1997 | JR二条駅前市民いこいの広場「しだれ桜」植樹 |
| 1990 | 元離宮二条城内休憩所「朱雀庵」建立 | | |

クラブ事務局 ■ 京都市中京区河原町御池上ル 京都ホテルアネックスビル4F TEL256-1160 FAX251-0585

上京区120周年記念

上京区民の文化的情操を高めるのが

上京区文化振興会の使命です。

- 上京区内の知られざる史蹟の顕彰
- 「上京の史蹟」の発行を基にした「上京・史蹟と文化」の編集、発行
- 春秋の表千家・裏千家による上京茶会
- 上京区在住の能楽・狂言の人間国宝の至芸が間に見られる上京区民新能もすでに35回目



発足以来四〇年余、
上京区民の文化人によって組織され、
文化振興に尽力してきました。